



TITLE:

明石-岡山-松山-廣島 : 訪問記

AUTHOR(S):

CITATION:

明石-岡山-松山-廣島 : 訪問記. 天界 1930, 10(108): 139-140

ISSUE DATE:

1930-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161519>

RIGHT:

明石——岡山——松山——廣島

(訪 問 記)

去る一月二十五日、朝7時30分京都發の列車で西行。約束により、9時半、三ノ宮驛で甲南支部の村山氏が同車され、10時過ぎ明石着。直ちに同道して市役所に行き、塚本視學と磯野市長とに面談。それから村山塚本兩氏に案内されて、のどかな小春日和の明石公園を散歩し、人丸神社前で、最近出來上つた中央標準時標柱を見てゐる時、ちょうど山内中學校長も來會され、次で驛前の一旅亭に四人で午餐を頂き、2時23分明石發の列車で西行。

午後5時50分、岡山着。水野宮原兩氏に迎へられ、旅館美吉野花壇に入つて夕飯。其の間に、兩氏と、年末のエロス觀測計畫について種々打ち合はせした。食後、水野氏に案内されて、門田屋敷に操山寮を訪れ、10時頃まで若い學生たちと談笑。それから歸宿。

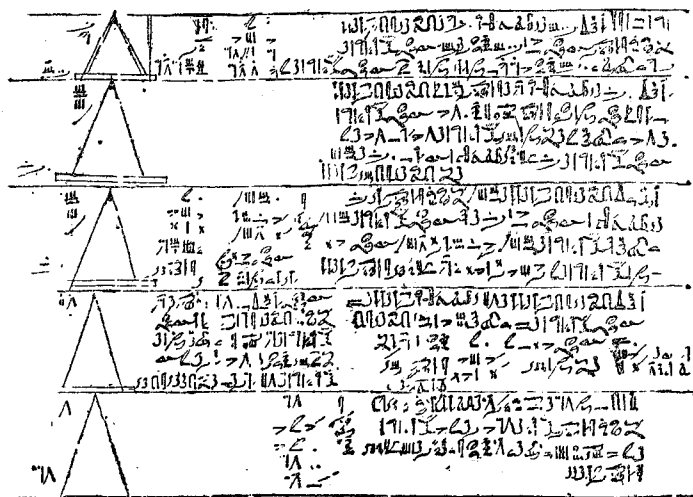
翌二十六日朝5時7分といふ早い汽車で岡山發、宇野で連絡船高松棧橋から準急行に乘車。正午過ぎ松山着。高校の河路教授や、高商の教授其他學生たちに迎へられ、自動車で直ちに高商校舎へ行く。此の日の午后は2時から同校講堂で高商高校兩YMCAの加盟式。式後、茶話會。それから一同高校に移り晚餐後、同校講堂で記念講演會。10時終り、西村文學士宅の御厄介になる。

二十七日、朝10時、西村氏の招きにより松山女學校に赴き、三年級以上の生徒に通俗天文講話。此の時、河路教授も來られたので、會後、三人で午餐。それから河路教授に見送られて、松山驛から輕便列車で高濱港に行き、廣島行きの汽船に乗り、2時出帆。——海は可なり波があつて、船はゆれたが、音戸瀬戸からは少しもゆれない。吳軍港に多くの大小軍艦に並んでゐる勇壯な姿を眺めながら、6時に宇品着。中村、吉田兩氏其他數

名の學生たちに迎えられ、直ちに藝ビル内に準備されたる天文同好會の晚餐會に出席した。

晚餐會は無慮25名の多數が參加せられ、此の市内外に於ける天文愛好者殆んど大部分を網羅してゐた。中村饒氏の紹介により、自分は食後立つて半時間ばかりの講演を試みた。題はエロス問題、太陽活動の近況、木星や金星の觀望事狀、等。いろいろ面白い質問あり。列席の曾田氏が西曆紀元前1700年頃のエジプト數學書複寫を來會者一同に配られるなどのこともあり、愉快であつた。

晚餐會後、約半時頃、高師、高校、高工の三校YMCAの代表者たちと、來る四月の部會の件を打ち合はせ、後、10時20分發の汽車にて歸洛。(山本生)



これは紀元前1700年頃エジプト人アームスの書いた古代の數學であつて現存する世界最古唯一の數學書といはれて居る。ナイル河畔テレーの小屋で發見され今はロンドンの大英博物館に納められて居る。長さ3.3m 幅0.33mのパピルスに書かれ此の寫の如く頗る美麗なものである。算術、幾何、三角法や實際測量のことが説いてあつて“不可解なこと、神秘なこと、あらゆる事物の智識に到達する教”と云ふ表題の下に書かれたものである。(曾田)